

全県で年間3km程度の進捗では整備完了まで90年以上も…子どもたちの安全のためにも通学路の整備優先を！



〔政策地域部〕
住民生活に欠かせない地方バス路線の維持充実
はますます重要

復興と県民のいのち・くらし第一の県政を…

内68路線、2億5910万円の補助を行っている。平成29年度も68路線、2億6934万円を予算化しており、関係者と連携しバス路線維持・活性化を進めていきたい。」と述べました。

〔警察本部〕

県民の命を守るため信号機の増設を



千田議員は、住民生活に欠くことのできない地方バス路線の維持がますます重要となっていることから、現状と今後の対応策について質問しました。

これに対し、大坊交通課長は「地方バス路線の維持については国との協調補助、県単予算算により広域的で幹線的なバス路線についてその収支欠損分を補助する支援を行っており、平成28年度は県

千田議員は、県民のいのちを守るという観点で、信号機の設置が毎年県内全体で10か所程度と少な過ぎることは大きな問題があると指摘。これに対して、内藤交通

小沢一郎氏の登場に

どよめきが…

1月15日から18日までの4日間、「日本共産党第27回大会」が静岡県熱海市で開催され、岩手からも千田県議を含む12名が参加しました。

千田県議らは、「前列から2列

目の特等？席で、野党3党と1会派が党大会に参加し挨拶を行うという感動的な大会に参加でき、その瞬間に立ち会えることができ

た！」と感想を寄せています。とりわけ、来賓として民進党の安住淳氏の次に「小沢一郎氏」が登場した時は、会場全体が「ワア」と言うドヨメキが起きました。



写真中央のピンクの上着が高橋千鶴子衆院議員、赤ジャケットが千田議員

（実は、直前までの情報では、自由党からは森裕子氏が出席予定と伝えられていました。）他に、社民党からは吉田忠智党首、沖縄の風の糸数慶子さんが挨拶を行いました。

〔教育委員会〕 35人学級を早急に 全学年に拡充し 教員の配置増を



千田議員は、35人学級を早期に全学年に適用させること、そのためにも教員の配置増が必要ではないかと質問。

これに対し、荒川小中学校人事課長は、「35人学級は小学校は4年生まで、中学校は2年生まで実施しており、来年度は中学3年生まで拡充するが、小学校5・6年生まで拡大するには国の抜本的な定数改善計画が不可欠であり国に対してその実現を強く要望していくとともに、少人数学級のほかティームティーチングや習熟度別指

導等、様々な方法のベストミックスについて研究を進めたい」と述べるに止まりました。

千田議員は、いじめ・不登校問題についても質問を行いました。

〔商工労働観光部〕 企業立地に伴う工業用水等の 支援を行う市町村へ県の支援を

千田議員は、「工業用水を低廉

且安定的に供給することにより、企業立地施策の推進と雇用の維持拡大を図るということは重要であるが、北上・金ヶ崎に隣接する奥州市の工業団地には工業用水が供給されていない。そのため立地する企業に対し、市が工業用水供給並の支援をしているが、県として支援をすべきではないか」と質問。これに対し、戸館ものづくり自動車産業振興室長は、「企業活動を行う上で用水は重要なインフラの一つだと認識している。しかし、県内においては上水道等を利用してはいる企業が圧倒的に多く、限られた財源の中でこれら

カバーする支援制度を設けることに限っては非常に厳しい状況にある。一方では、奥州市をはじめとしてこのような支援制度を運用している市町村もありますので、市町村の意向、企業ニーズ等踏まえ、関係部局等と意見交換しながら、効果的な支援策について、不断に研究したい。」と述べました。

〔農林水産部〕 県産米の消費拡大、 青年就農給付金事業の充実を



千田議員は、「青年就農給付金事業において、親元就農の場合は5年以内の経営移譲が条件とされる等の課題がある」と指摘。これに対し、高橋農業技術課総括課長は、「親元で農業を目指すことはまさしく将来のリーダーとなる大切な担い手だと考えており、国に対して農家の後継者も事業対象者となるように、5年間の継承の期間を10年に拡大すること等、予算確保も含めて要望していきたい」と述べました。このほか、千田議員は、県産米の消費拡大策の実施を求めました。

〔県土整備部〕 県が管理する道路のうち 整備が必要な通学路の総延長は272km。テンポを 早めて整備を



千田議員は、県が管理する道路のうち、通学路の整備が必要なのは、総延長で272kmのことだった。しかし整備の進捗状況は、平成28年度、29年度とも、約2.7km程度であり、このまま推移すれば、整備完了まで90年から100年も掛かってしまい、子どもたちのいのちを守る上で大きな問題があると指摘。これに対し、千葉道路環境課総括課長は、「通学路の歩道整備は用地交渉や関係機関との協議・調整等、一定の期間を要してしまう。そのため通学路の安全確保については、歩道整備以外のハード整備、スクールガード等、関係機関が連携して取り組むことが重要だ」等と述べるに止まりました。